

ププサの国・エルサルバドルにまた行きたい！

私が初めてエルサルバドルを訪問したのは、2019年2月のことでした。業務と生活の拠点であるメキシコシティからサンサルバドルに飛べば、そこは南国！メキシコシティでは見られない木や花に囲まれた空港は、ひさびさに故郷に帰ってくる家族を待つひとびとの熱気であふれていました。そして、私たち出張者を出迎えてくれたのは、エルサルバドル国立大学のアントニア・リバスさん。同大学の日本語教師であり、第10回中米カリブ日本語教育セミナーの運営責任者です。セミナー準備に奔走するなか、ご自身の車で空港まで迎えに来てくれました。

中米カリブ日本語教育セミナーは、2009年より年1回、中米カリブ各国の日本語教師によって開催国持ち回りで行われています。開催国のみならず参加10カ国がいろいろな役割を担っていますが、どうしても開催国の担当者は会場準備やスケジュール調整など、大きな責任を担わざるをえません。エルサルバドルは第4回（2013年）も開催国でした。しかし、今回はJICA日本語隊員も日本人日本語教師もいません。アントニアさんをはじめとするエルサルバドルのノンネイティブ教師（日本語を母語としない教師）が大使館の協力を得ながら準備にいそがしい日々をおくっていました。そのうえ、私たちは、セミナー前にエルサルバドル国立大学と中米大学双方の日本語授業の見学まで依頼していました。到着日の夕方、それぞれの大学で授業見学をしたあとに、アントニアさんたちが連れて行ってくださったのは、ププサ（Pupusa）の店でした。

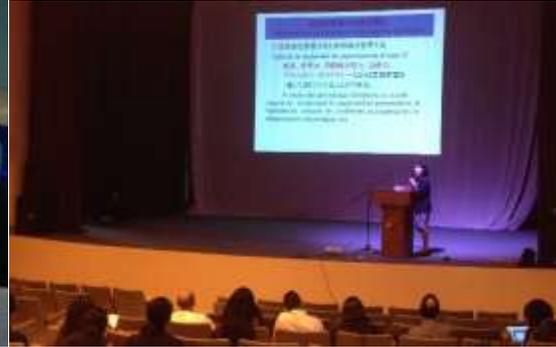
ププサは、とうもろこしや米の粉の生地を手のひら大に伸ばして、豆のペーストや肉、チーズなどを包んでから鉄板で焼いた料理です。日本のおやきを薄くした感じでしょうか。



ププサといっしょに、クルティードと呼ばれる細く切ったキャベツやニンジン、タマネギなどが入った酢漬けと一緒に食べるのが定番の組み合わせだそうです。

焼いたばかりププサは、とても熱いのですが、手で食べなさい、とのこと。お寿司は箸を使わずに手で食べることと同じかな、と手でいただいたのですが、やけどしそう！でも、とてもおいしかった！ちなみに、お寿司にはガリ（生姜の甘酢漬け）がつきものですが、ガリはお箸でいただきますよね。しかし、クルティードはププサといっしょに手で食べなさい、とのこと。これもまた、おいしかった！

さて、出張目的は中米カリブ日本語教育セミナーでの基調講演や、分科会等への支援でした。各国から集まった日本語教師約 50 名とともに 3 日間の充実したときをすごして、無事、セミナー終了。



仕事がおわってメキシコに帰る前に「なにを食べたいですか？」とアントニアさんに訊かれた私たちの答えはもちろん「ププサ」！ 空港に向かう途中にププサのお店がたくさん立ちならぶ村があるというではありませんか。到着したら、ほんとうにププセリアが何十軒（100 軒以上？）も並んでいました。どこに連れて行ってくれるのかと思えば、日本語教師仲間で情報をやりとりして、めざすべき一軒に！ ププサをしっかりと堪能して帰路につきました。

実は、この出張、事前手続きがたいへんでした。外務省の海外安全情報によれば、サンサルバドル市セントロ地区が「レベル 2：不要不急の渡航中止」となっています。そのため、所属機関本部に用務先や宿舎に関する詳細情報とともに、いかに安全を確保するかを記述した書類を提出しました。もちろん、セミナー会場であるエルサルバドル国立大学はセントロ地区から離れていて、そもそもセントロ地区に行く用務はなかったにもかかわらず、です。 なお、私たちの事務所があるメキシコ市も「レ

ベル1:十分注意してください」。サンサルバドルのほとんどの地区も同じく「レベル1」です。エルサルバドルだけが危険なわけではありません。遠い日本からは「危険」とみられるところでも、そこには素敵なひとびとがおいしい食事とともに生きています。そして、熱心に日本語を教える現地教師がいて、日本や日本語に関心をもつ方々がたくさんいます。エルサルバドルに出張する機会を得て、エルサルバドルの方々といっしょに、おいしいププサをいただいた私は幸せ者です！

その後、エルサルバドル国立大学と中米大学の日本語教師のみなさんから「オンラインで日本語授業を行うための教師研修」を開講してほしいという希望が寄せられました。そこで、今年3月から6月まで ZOOM というオンライン会議システムを利用して研修を実施しました。その期間は、毎週、エルサルバドルの方々（オンラインで）お会いしていました。さらに8月27日には、「日本語教師の多国間連携—中米カリブ日本語教育ネットワーク10年の歩み」と題してオンラインセミナーでアントニアさんにお話してもらいました。



オンラインで会って話をするのは簡単になりましたが、熱くてやけどしそうな「ププサ」を手でいただくにはエルサルバドルに行かなければなりません。またいつかエルサルバドルを訪れるときにはププサの店に行きたいものです。エルサルバドルのみなさん、ぜひ、お勧めのププサをご紹介ください！

平田 好（ひらた よしみ）氏

独立行政法人国際交流基金より日本語上級専門家として、これまでベトナム、ラオス、カナダ、中国に派遣。2017年9月より2019年9月まで、国際交流基金メキシコ日本文化センターを拠点として、メキシコ及び中米カリブ地域の日本語教育の支援に携わる。エルサルバドルの日本語教師等を対象とする教師研修を企画・実施。